

ニューヨークの和食

前回の“ワシントンDC通信”に登場した私の友人がニューヨークに住んでいるため、月に一回程度、私はニューヨークへ行きます。無論、彼と一緒に時間を過ごすことも楽しいのですが、ニューヨークには強力な魅惑があります。それは和食です。

私が暮らしているワシントンDCと比較して、ニューヨークの和食ははるかに豊かです。東京よりニューヨークの方がレベルが高いと言った日本人の京料理シェフもいたそうです。和食を好む私と友人は、アメリカに住みながら和食に憧れていて、アメリカでも機会をみつけては和食を楽しんでいます。

今回は、ニューヨークで我々好みのジャパニーズ・レストランを紹介します。アメリカに来る日本人は、普通、和食を食べる気がしないかもしれませんが、もしニューヨークでアメリカの和食を試してみたくなるときには、下記が役に立つかもしれません。

・Aburiya Kinnosuke (炙り屋錦乃介)

この店はかなり美味しいものを出しています。狭い店ながら、スペースを上手に使って、4人ずつ座れるプライベートなテーブルが竹のカーテンによって仕切られています。私は、銀ダラ西京焼と黒糖焼酎やわらか角煮とが旨くてたまりません。

・Bohemian (ボヘミアン)

この店では日本人しか働いていません。雰囲気は、名前の通りに自由奔放な生き方をしている人が落ち着くモダンなラウンジといえます。店はニューヨークだけでなく、西麻布とインドネシアにもあるそうです。Sarah Vaughan等のジャズが流れる中、ラガヴァーリンのスコッチ (写真) を飲むと、それまで



の疲れが霧消していくような気分になります。友人がこの店を発見して初めて行ったときに、店に置いてあるギターを弾いてみたら、店の人から「いつでも来て弾いてくれたら嬉しいです」と言われ、その後よくボヘミアンへ行って一人で演奏をしています。

・Sakagura (酒蔵)

ここは少し隠れているような感じのお店。最初に行ったのは、ある焼酎バーで、その店の人に「この店の後ろの酒蔵での食事はどうですか?」と薦められたからです。地下にある酒蔵に入ると、とても広くて豪勢な感じがしました。日本酒の選択肢が多いだけでなく、居酒屋のような美味しい料理が出される素敵なレストランです。

・Robotaya (炉端屋)

この店は、East VillageのJapan Townにあります。私は、春に大阪を訪れた時に、難波の法善寺横丁にある炉端屋に行ってみました。そこと同様に、ニューヨークの店でも、客が座る長いカウンターの後ろに居る二人の料理人が調理してくれます。客がカウンターに座って注文すると、その注文に応じて料理人が料理を作り、それを大きい木製のしゃも

じに載せて客に渡すのです。カウンターと料理人の間に設けられている台の上にはたくさんの野菜や魚が置いてあり、料理に必要なと、料理人が忍者のように台の上へ飛び上って素材を取るのです。最初に見た時にはビックリしてビールがこぼれそうになりました。

・ Umi no ie (うみのいえ)

長崎の五島列島の名産を中心にした店で、まるで九州の海沿いの居酒屋で食べているような気持ちにさせてくれます。あごだし料理が自慢ですが、から揚げやレンコン料理も美味しいです。スタッフは気楽で話しやすい人たちです。大橋トリオという男性歌手・音楽家にそっくりなウエーターがいて、私が彼に「大橋トリオに似ていると言われたことがありますか?」と訊いてみたら、「ええ、あります」と格好よく答えてくれました。

・ 焼肉ウエスト

East VillageのJapan Townに「焼肉ウエスト」という旨い焼肉店(写真)があります。「焼肉ウエスト」は、本格的な炭火を使った(写真)、ちゃんとした日本の焼肉店です。日本では注文困難なレバ刺しもあります。誇張ではなく、そのレバ刺しは美味しすぎて麻薬でも入っているように私を狂わせるのです。梅トントロも見事な味です。



ここで告白しておきますが、なんだかんだと言って、私にとっては焼肉が一番美味しい和食です。寿司や京料理もいいけれども、やはり焼肉! 前回の“ワシントンDC通信”で書いたように、小京都へ行きながらもカルビを食べてしまうくらいなのです。勿論、元は韓国から来た料理であることは知っていますが、韓国の焼肉とは私の中では別の存在です。韓国式の店では、肉の味が日本のと少し違うし、ソースも異なります。一番感じる違いは、自分で焼くことができるかどうか。韓国式の店では、ウエーターが肉を持ってきてハサミで切って同時に全部焼くので、一気に食べなければなりませんから落ち着きません。私は、日本式の方が好みです。

さて、これらのニューヨークのジャパニーズ・レストラン。いかがですか? アメリカ人だけでなく、日本人にとってもレベルは高いはず。ニューヨークに行ったら、試してみてください。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学(DC)で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町(現在三豊市)の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。